

●技術情報

Q&A

[6] 作物別施用法（野菜類）

Q6-4-6 野菜の追肥として効果を上げていると聞きますが、その施用方法を教えてください。

A6-4-6 石灰窒素は作物に直接かかると薬害を起こすので追肥として施用されることは少ないのですが、生育期間の長い野菜や長期間にわたって収穫をつづける野菜には追肥として施用したり、また葉面が「ろう質」で比較的石灰窒素の被害を受けにくい野菜には施用して効果を上げている事例が増えてきました。たとえば、ナス、ピーマン、ネギ、タマネギ、キャベツ、ブロッコリーなどです。この場合、石灰窒素は粒状を施用し、なるべく作物にかからないよう畦の肩口や畦間に施します。また、風のあるときなどは土と混ぜて施用するとか、飛び散らぬよう地面近くから施すなどの工夫をして下さい。なお、大雨が予想される場合は施用を控えて下さい。